

青花 せいか かわらばん 瓦版

2014年12月25日発行 通巻第129号
発行 佐賀県 西松浦郡 有田町 黒牟田 しん窯青花
電話 0955-43-2215 FAX 0955-43-2889
URL <http://shingama.com/shingama.html>
E-Mail Address shingama@po.saganet.ne.jp
発行責任者 梶原茂弘

— 第百貳拾九号 —

(2014年冬号)

イベント盛りだくさん

11月は、1日～3日秋のミニ市。22日(土) いい夫婦の日は姪の結婚式で宮崎へ。20日～24日迄秋の陶磁器まつりと伝統的工芸品月間国民会議全国大会(佐賀大会)が有田町・伊万里市・武雄市・嬉野市で開かれました。恒例になりました秋のミニ市は33回目、いい夫婦の結婚式出席は初めて、秋の有田陶磁器まつりは10回目、伝産大会は31回目、とそれぞれ心に残るイベントのオンパレードでした。

2年後の2016年は、日本磁器誕生・有田焼創業400年を迎えます。節目の年に向かって、新生しん窯の様々なスタートになりそうです。70才働き盛りと自分自身に強く言い聞かせて、好奇心を失わず行動力を持ち続けていきたいと願っています。



伝統的工芸品月間国民会議全国大会（佐賀大会）

青花ブランドを発表した頃、職人さんの鑑である認定伝統工芸士を10人育てるぞという大きな夢を掲げていました。それから38年の流れが過ぎましたが、しん窯からロクロ部門伝統工芸士が2人、下絵付部門が2人、上絵付部門が1人、と合計5人が育ちました。10年にひとりの割合ですから、目標までに100年かかりそうです。私自身が職人ではなくて、職人さんを育てる環境をつくる事を天職として、女房とふたり、社長と副社長ではなくおやじさんとおかみさんとして頑張ってきました。まだ道半ばですので、現役をはり続けているのです。

さて、待望の佐賀大会が、11月20日（木）～24日（月）有田町焔の博記念堂を会場に全国の職人さん達を集めて大々的に開かれました。そのイベントのメインが産地間コラボ事業です。有田焼と輪島塗のコラボ事業に、しん窯専務の認定伝統工芸士橋口博之と輪島キリモトの桐本社長チームと縁結びがありました。その名もYOUWA、有輪とも融和とも書けます。



以下、桐本泰一氏によるコメントです。

しん窯 橋口博之

輪島キリモト・桐本木工所 桐本泰一

今回のコラボレーション事業・ものづくり事業において、何をしたいのか？

●コンセプト・・・・・・・・

→暮らしで使うモノを創りたい

→洋食に使えるモノを創りたい

→有田と輪島が溶け合うモノを創りたい

→日本国内に限らず、世界でも使えるモノを創りたい

テーブルで存在感がある器のかたちを見つける

椀木地 伝統工芸士・寒長茂氏

・蓄材されていた大きなケヤキの荒型を発見！

・「ピン！」と感じるモノがあり、すぐにイメージ製作着手。

・その輪島ではかなり特殊な荒型から、コンセプトに基づいたかたちを探った。

テーマは「有田」と「輪島」＝「有輪」(YOUWA)

「有輪」・・・「融和」気持ちが相手と通じ合い、打ち解けて仲良くすること

かたちにもその有輪を組み込んだ。

このかたちは、

横から見ると「有」の文字を意識しました。

上からみると「輪」＝◎と見えます。

下地は小物から家具までオールラウンドに仕事ができる小林栄一氏、
上塗りは輪島塗伝統工芸士会前会長の津田哲司氏、津田眞一郎氏親子、
蒔絵指導は現在輪島塗伝統工芸士会会長の北濱幸作氏

テーマを組み込んだかたちに橋口さんが「麻の葉模様」を描いてくれます。

麻の葉文様は古くは平安時代から仏像の衣に施されていたおめでたい文様です。
増え広がりをも意味するもので世界平和の象徴として現代にも多くの素材にあしらわれて
います。その麻の葉をくずしの美学でモダンに表現してみました。

かつて、海外への展開もしていた有田産地。

これまでほとんど海外展開を手掛けていない輪島産地・・・・・・・・。

有田からのお声かけをきっかけに、一緒になっていまの世界で展開できる「器」に挑
戦して行きたい。

友人を大切に

(株)グロービズ社長堀義人氏が有田町曲川小学校で当時の古川知事と対談された時、小学校高学年の子供達に

友だちを大切にしなさい
と力説されました。

1 1月は、私にとって友だち月間でした。サプライズ3連発をご紹介します。
サプライズその1

早大時代机を並べた隣の友人大林秀仁氏（元日立ハイテク社長）が秋の叙勲で旭日中綬章を受けられました。HITACHIのブランドで医療分野で電子顕微鏡や4Kいや8K内視鏡を開発にあたり、最先端技術分野の先頭に立って活躍された功績に贈られたのでしょう。私達の誇りであり、自慢です。おめでとうございます。

サプライズその2

日本青年会議所経営開発委員会の同志である井上峰一氏（株式会社いのうえグループCEO）の随筆が、10月1日付の日本経済新聞交遊抄に掲載されていました。手紙を出して旧交を温めていましたら、思わぬビジネスチャンスが生まれそうです。峰ちゃん（昔このように呼んでいました）は、倉敷商工会議所会頭として地域の経済界をリードされています。近日中には是非会いたいと思っています。

サプライズその3

有田中学校の同級生坂井春秋君が突然「今日から有田町民になったけん！」と言って訪ねてくれました。仕事でインドネシアに約29年間在住し、5年に一度の有中同窓会に顔を出し、中学校時代同じ野球部で良く運動し良く遊んだ仲でしたので、会えばいつもタイムスリップしていました。今回突撃来訪でほんとうに驚きました。これから頻繁に会って徐々に空白を埋めていきたいと思っています。

以上、友人を大切に！という教えを実行してきたからこそと嬉しくなりました。

あっという間の1年でした。

師走選挙もあって、モノづくりを本業としながら、国づくりへも大きな関心を寄せていました。また、私たちの県、佐賀県では、年をまたいで知事選やお隣の武雄市長選もあり、何かと気忙しい昨今です。皆さまにとりましても、来年がますます輝く年となりますように、ご祈念申し上げます。

